巻 頭 の 言 葉

江戸川大学国立公園研究所は、平成25年(2013年)4月1日に設立してから6年が経った。この6年間、研究所の目的である『内外の国立公園(各種自然公園を含む)に関する研究の推進と国立公園関係者の交流の活発化を通じて、国立公園の保護および利用の質の向上と活性化に寄与する』を果たすために、研究所スタッフの研究活動のほか、様々な行事を開催してきた。例えば、国立公園フォーラム、シンポジウム、国立公園講座、自然観察講座、アメリカ国立公園誕生100周年記念3D映画「アメリカ・ワイルド」上映会など、国立公園の啓発にも力を入れ、その都度大勢の参加者を得て所期の目的を果たした。

スタッフの研究活動成果と開催した行事の結果を公表するために、設立3年目から国立公園研究所年次報告「NP FORUM」を刊行し、今年度は第4号を発刊することになった。

国立公園研究所のスタッフは、研究所のHPで見ていただくことができるが、学内は現代社会学科の環境政策、観光創造、環境社会システム、環境教育、自然環境保全などを研究領域とする教員と大学学術情報課の職員、学外からは自然公園研究、環境行政、国立公園の実務経験をもつ客員教員と客員研究員が加わって構成している。客員研究員にはアメリカ、ブータン、ベトナムなど海外からも参加を得ている。今年度はスタッフに異動があり、設立当初から学内スタッフだった吉永明弘准教授が、法政大学教授へ転じたため客員教員となり、4月から現代社会学科に採用された佐藤秀樹講師が新しいスタッフになった。

第4号は、(1)2018年11月に開催したシンポジウム、(2)論文・論説・研究報告、(3)「國立公園」誌の連載記事、の3項目を中心に編集した。第1のシンポジウムは、昨年の学園祭で開催したテーマ「ピーターラビットとナショナル・トラストをめぐって」の内容で、話題提供を行ったパネリストと、会場に参加した大勢の市民が一体になり、ナショナル・トラスト運動や市民活動をとおして住みよい地域づくりの意見交換を行った内容を掲載した。第2の論説・論文・研究報告は、スタッフの研究活動成果として、①昭和初期の国立公園指定における内務省の区域設定と国立公園委員会の審議に関する論考、②ニュージーランドの国立公園～トンガリロ国立公園、その成立の真実～、③平成江戸川版現代語訳「国立公園法解説」(下)、④バングラデシュ・シュンドルボン(The Sundarbans)周辺における住民の持続可能なエコ・グリーンツーリズム開発の阻害要因に関する考察～社会的包摂へ向けた地域体験型観光の実現を目指して～、の4編を載せた。第3の「國立公園」誌の連載記事は、我が国唯一の国立公園に関する月刊専門誌「國立公園」へ、研究所スタッフが毎号「江戸川大学国立公園研究所から」を執筆しており、その記事を編集したものである。

年次報告第4号が、江戸川大学国立公園研究所の発展と、内外の方々に研究所をご理解いただく資料になれば幸甚である。

2019年11月

江戸川大学国立公園研究所客員教授・年報編集委員長

油井　正昭